



段葛森の淑氣が海へ出る

せせらぎを芽吹き声と聴きすます

俳諧の顔して虚子忌に紛れ込む

八景に木の芽ひかりの陽あまねし

谷戸谷戸の流れ出合ひて春の水

1

大権現法鼓とよもす芽吹山

頼朝公へ万の献灯花満天星

常磐御前の紅涙赤きまんさくは

荏柄天神朱塗り新たに梅は実に

楼門は古り雲の峰新しく

2

大拙の墓から蜥蜴瑠璃びかり

天神の梅天神の庭に干す

安養院つつじ腐しの雨つづく

菩提樹の花の仏法蜂集ふ

さんご樹の実よ八月の暗き赤

3

台風のどの切通し攻め来るや

法師蟬鳴け鳴け比企の墓濡らせ

海蝕洞秋思の闇の奥へ奥へ

土牢の闇から出でて水の秋

化粧坂紅葉明かりが美女つくる

4

法師蟬の高音や三浦滅びの地

千草咲く御堂移築の跡にして

鷺歩む深さに澄めり田越川

参道の長さ吹雪をゆく長さ

まわり堂冬陽を低く廻すなり

大銀杏誰はばかりぬ裸形かな

谷戸に出て谷戸を出でざる寒九の陽

冬麗や墓向きあひて虚子立子

時宗の英断冷ゆる元使塚

百日紅幹の怪奇も芽吹き前